2025年度　講義要綱

科　目	コミュニケーションⅠ 必修 講義	講　師	佐藤 めぐみ
授業概要	・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ)		
授業目標	・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・社会人としての自己像を明確にする。 ・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」なかむらしんいちろう・鈴木八重子) ・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」なかむらしんいちろう) ・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」千葉幸) ・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代) ・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」) ・子どもにとって魅力的な絵本に関する空間やレイアウトについて理解する。(認定:「絵本のある空間」江花志乃)		
到達目標1	・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。計6コマ	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出　50点
到達目標2	・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養い、進路決定に必要な基本的知識、スキルを活用できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度　50点
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。		
授業計画	1　4/10 オリエンテーション		
	2　4/17 クラス活動①		
	3　4/24 三浦サニー先生のコミュニケーションプログラム(ND1b 木3限 13:00～14:30　4月24日(木))		
	4　5/8 クラス活動②		
	5　5/15 クラス活動③		
	6　5/22 産学連携		
	7　5/29 クラス活動④		
	8　6/5 クラス活動⑤　オンライン週		
	9　6/12 クラス活動⑥		
	10　6/19 クラス活動⑦		
	11　6/ 26 クラス活動⑧　オンライン週		
	12　7/3 産学連携		
	13　7/10 クラス活動⑨		
	14　7/17 クラス活動⑩		
	15　7/24 クラス活動⑪ 前期終了		
	16　9/9 オリエンテーション 後期		
	17　9/16 クラス活動⑫		
	18　9/23【認定絵本士養成講座科目】「オリエンテーション」担当:なかむらしんいちろう・鈴木八重子		
	19　9/30【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う③」担当:千葉幸		
	20　10/7 クラス活動⑬　オンライン週		
	21　10/14 産学連携		
	22　10/21【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術②」担当:なかむらしんいちろう　課題提出		
	23　10/28【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」担当:横山雅代		
	24　11/4 就職に向けて(1)担当就職相談室		
	25　11/11 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」(支援が必要な人々や高齢者への絵本 の役割)　課題提出		
	26　11/18 クラス活動⑭　オンライン週		
	27　11/25 産学連携		
	28　12/2【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」担当:江花志乃		
	29　12/9 就職にむけて(1)担当就職相談室		
	30　12/16　クラス活動⑮ 後期最終日		
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト		
参考文献			
担当教員の 専門分野等	佐藤 めぐみ:実務経験のある教員。 【認定絵本士養成講座担当講師】 〇なかむらしんいちろう:講座責任者・絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者　〇鈴木八重子:前講座責任者　〇:障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者　〇江花志乃:書店における絵本の売り場つくり、及び、絵本の出版流通に精通した者　　〇千葉幸:図書館司書業務と、地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の現状に精通した者　〇横山雅代:書評に関する専門的知識を有する者		

この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	30　%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	20　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	20　%	専門的知識・技術	10　%

2025年度　講義要綱

科　目	体育講義 必修 講義	講　師	藤井 真理
授業概要	心身の健康を維持し、健やかな生活を送るために、現代社会における健康を取り巻く諸問題や背景について考え、健康の重要性を十分に認識することが肝要である。加えて、健康的な生活を構築する意識を高め、体力の保持・増進を図る上で有効なアプローチについて知識を得ると共に、健康維持のために生涯に亘って日常的に運動やスポーツに親しむ等、獲得した知識を活かして具体的に行動を起こす態度の涵養が重要である。本授業では、心身の健康について幅広い視点から知見を深めることを通して、生涯体育が果たす役割と意義について学ぶ。		
授業目標	1. 生涯体育が果たす役割と意義について理解する。 2. 現代社会における心身の健康について多角的に理解する。 3. 体力の保持・増進を図る上で有効なアプローチについて理解する。		
到達目標1	健康の重要性を理解し、体力の保持・増進を図る上で有効なアプローチについて説明できる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	第7回における中間試験（10点），第15回における期末試験（30点），レポート課題(10点)
到達目標2	心身の健康について多角的に理解し、生涯体育が果たす役割と意義について説明できる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	第7回における中間試験（10点），第15回における期末試験（30点），レポート課題(10点)
授業方法	授業は、オンラインで行う講義と対面での講義のアクティブラーニング・スタイルで行う。		
授業計画	1　オリエンテーション ・本授業の目的　・各回の概略　・到達目標と評価		
	2　運動の生理学 ・運動の種類　・学校体育　・運動やスポーツがもたらす効果		
	3　運動の心理学 ・運動を支える心理　・スポーツ場面におけるルーティン　・あがりの克服と対策		
	4 トレーニング ・トレーニングの種類と効果　・トレーニング実施時の留意事項　・トレーニングの実際		
	5　生涯体育が果たす役割と意義 ・フレイル（サルコペニア・ロコモティブシンドローム）　・介護予防の取り組み　・生涯体育		
	6 【産学連携】 保育課題:「子ども達はどのような遊びで身体を使っていましたか？」		
	7　中間試験・振り返り ・中間試験　・第1回～第6回までの振り返り　・第1回～第6回までの補足		
	8　幼児と運動【オンライン】 ・幼児期における運動の意義　・幼児期運動指針　・幼児期の運動の在り方		
	9　ストレス ・ストレス発生のメカニズム　・ストレッサー　・ストレス病		
	10　睡眠と心身の健康 ・睡眠の重要性　・睡眠の質と量と型　・不眠症と対策		
	11　飲酒・薬物【オンライン】 ・依存のメカニズム　・依存の危険性　・治療と回復		
	12 【産学連携】 保育課題:「運動遊び（からだを動かす遊び）をしている子ども達の姿を見て、保育者はどのような言葉かけをしていましたか？」		
	13　脳の再生と発達 ・脳卒中　・生活習慣　・脳の回復力と柔軟性		
	14　振り返り・レポート作成（提出） ・第1回～第13回までの振り返り　・期末試験対策　・レポート作成（提出）		
	15　期末試験 ・期末試験（第1回～第14回までの総まとめテスト）　・期末試験の解説　・全体の振り返り		
必須テキスト	特になし（適宜プリントを配布）		
参考文献	授業内で紹介する		
担当教員の専門分野等	三十有余年に亘り、保育者養成校（短期大学，専門学校）において勤務。専門は身体表現。一般教育科目では体育理論と体育実技、専門教育科目では保育内容「表現」，保育内容「健康」，保育内容総論，保育教材研究などを担当。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	20　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	40　%

2025年度　講義要綱

科　目	日本語 必修 講義	講　師	橋本 千鶴
授業概要	人間の言語能力である「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの特徴を理解し、保育者として求められる基礎的な言語能力の向上を目指す。実習や保育現場での対応を想定して、4つの言語能力を具体的な場面から考える。		
授業目標	1.「話すこと」自分の伝えたいことを分かりやすく表現する。 2.「聞くこと」相手の言いたいことを的確に把握する。 3.「書くこと」自分の考えや思いを明確に表現する。 4.「読むこと」書いてある内容を正確に理解し、適切に口頭で表現する。		
到達目標1	自分の考えや思いを、相手意識・目的意識を考えて適切に表現することができる(書く)。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への積極的な取り組み度（10点）・課題の評価①小論文（20点）②観察記録（5点）③連絡帳（5点）・リアクションペーパー（10点）　→合計50点
到達目標2	話し手や書き手の言いたいことを正確に理解し、自分の考えを明確にすることができる（話す・聞く・読む）。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	授業への積極的な取り組み度（10点）・授業内の実技の評価①素話の発表（10点）②話の聞き方（5点）③言葉遊び（10点）④絵本の読み聞かせ(5点)・リアクションペーパー（10点）　→合計50点
授業方法	保育者に必要な4つの言語能力について、グループワーク・ディスカッション等の体験や実技を通して実践的に学ぶ。		
授業計画	1　オリエンテーション（授業概要・目標・評価他）・【話】自己紹介・【聞】素話の紹介		
	2 【書】文字の正しい書き方（平仮名・漢字他）		
	3 【書】観察記録・実習日誌の書き方		
	4 【書】連絡帳の書き方		
	5 【話】素話の発表・【話】保護者への話し方・敬語		
	6　産学連携　保育課題【子供たちの様子を観察し、印象に残った場面について「観察記録」を簡単に書きましょう。】		
	7　乳幼児の言葉の発達と言語表現		
	8 【書】原稿用紙の使い方・小論文の書き方		
	9 【聞】カウンセリングマインドに基づく話の聞き方(1)（言語的技法）		
	10 【聞】カウンセリングマインドに基づく話の聞き方(2)（非言語的技法）		
	11 【話】子供と楽しむ言葉遊び(1)		
	12　産学連携　保育課題【子供と保育者の関わりの中で言葉遊び・わらべうた等があった場合、その場面、内容等を書きましょう。また、それらがなかった場合、保育者が子供に語りかける言葉で印象に残ったものについて、その場面、内容等を書きましょう。】		
	13 【話】子供と楽しむ言葉遊び(2)（模擬保育）		
	14 【読】文章の読み方（音読）・【読】絵本の読み聞かせ		
	15 【読】昔話（解釈と言葉のおもしろさ）		
必須テキスト	特になし。		
参考文献	授業で適宜紹介。		
担当教員の専門分野等	小学校教員として長く勤務し、国語・ことば分野を重点的に研究。日本カウンセリング学会認定カウンセラー。大学等で、幼児と言葉・保育内容指導法（言葉）・文章表現・言語文化表現・教育相談（カウンセリング）等の授業を担当。「教師・保育者のための教育相談」（共著・萌文書林）を出版。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	20　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	20　%	専門的知識・技術	30　%

2025年度　講義要綱

科　目	保育原理 必修 講義	講　師	向井 優芽
授業概要	「保育とは何か」ということについて考えていきます。自分の考えを持って、保育は誰のためにあり、何のためにあるのか、自分はどんな保育者になりたいか、を考え続けるための授業です。		
授業目標	1. 保育の意義及び目的について理解する。 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。		
到達目標1	1. 保育は誰のためにあるのか、何のためにあるのかを説明できる	到達目標1に対する評価 （方法及び配点）	・最終回に実施予定の記述式テストで評価する（50点） 　自分の考えをわかりやすく、適切な表現で記載すること。漢字等の誤字は減点にしませんが、表現には気を付けること。（例えば「～させる」「～してあげる」は望ましくない場合が多い） 　量より質で評価する。例えば「〇〇は大切だと思う」だけでなく、なぜそう考えるのかが書かれていること。加えて具体的な場面の想定、自分の経験が踏まえられているとより評価できる。
到達目標2	2. 保育における「5領域」の内容を自分の言葉で説明できる	到達目標2に対する評価 （方法及び配点）	・授業内に実施する筆記テスト（穴埋め）で漢字を含め一言一句間違えずに正答すること。（20点） ・授業内のグループワークにおいて5領域の視点をもった考察を行うこと（30点）
授業方法	・講義やグループワーク 　保育者には他者とのコミュニケーションや自分の考えを表現する力が大切です。 ・テスト（小論文形式）		
授業計画	1　オリエンテーション		
	2　保育と学校教育の違い 子どもの権利と最善の利益		
	3　保育の理念と保育の基本		
	4　養護と教育の一体性についての事例検討・グループワーク		
	5　保育の内容　3つの視点と5領域		
	6		
	7　エピソードを書く・読む		
	8　エピソードの検討　5領域への理解を深める		
	9　保育内容　内容の取扱いと配慮事項		
	10　保育の計画と記録（1）		
	11　保育の計画と記録（2）		
	12		
	13　エピソードを書く・読む		
	14　エピソードの検討 保育者のかかわりについて		
	15　・5領域に関する用語の穴埋め問題 ・「保育とは何か」に関する小論文（具体的な内容はそれまでの授業内で提示します）		
必須テキスト	保育所保育指針（幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育要領）		
参考文献	授業時に紹介		
担当教員の専門分野等	保育者の専門性・実践知に関する研究をしています。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	20　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	15　%
	他者と関わる力	15　%	専門的知識・技術	20　%

2025年度　講義要綱

科　目	教育原理 必修 講義	講　師	佐藤 雄哉
授業概要	本講義では「教育とは何か」という問いに取り組むために手掛かりとなる教育学の基本的な諸概念や、教育に関する理念的・歴史的・思想的な知識を学びます。本講義の目標は、上記の知識を習得し、それを現代社会における教育課題と重ねて理解することです。		
授業目標	1. 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。 2. 教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 3. 教育の制度について理解する。 4. 教育実践の様々な取り組みについて理解する。 5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。		
到達目標1	教育学の基本的な諸概念及び教育に関する理念・歴史・思想に関する基礎的な事項について理解し、自らの教育観を深めることができる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	毎回のリアクションペーパー（20点）、レポート（30点）
到達目標2	講義の中で考えたことについて自分の言葉で表現することができる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	毎回のリアクションペーパー（20点）、レポート（30点）
授業方法	基礎的な事柄については講義形式で授業を行い、適宜グループワークやディスカッションに取り組みます。毎回のリアクションペーパーと、期末レポートに基づいて評価します。		
授業計画	1　オリエンテーション：教育とは何か		
	2　権利としての教育と義務教育		
	3　近代教育制度と政治		
	4　現代社会の教育課題①：不登校		
	5　現代社会の教育課題②：障害		
	6　産学連携①		
	7　インクルーシブな社会観と学校教育		
	8　現代社会の教育課題③：学力		
	9　子どもの生活に根ざす学習		
	10　現代社会の教育課題④：道徳教育		
	11　学校での人権教育の可能性		
	12　産学連携②		
	13　現代社会の教育課題⑤：校則		
	14　子どもの権利、教員の義務、家族の責任		
	15　まとめ:改めて教育とは何か		
必須テキスト	池田賢市『学びの本質を解きほぐす』新泉社、2021年。		
参考文献	中村文夫編『足元からの学校の安全保障』明石書店、2023年。		
担当教員の専門分野等	教育史、人権教育論。東京大学大学院教育学研究科博士課程。修士（教育学）。中学校における学習支援員（板橋区）。産業・教育資料室きねがわ運営委員。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	25　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	20　%	専門的知識・技術	20　%

2025年度　講義要綱

科　目	子ども家庭福祉 必修 講義	講　師	荒田 直輝
授業概要	本授業では①子どもと子育てをする者を取り巻く環境についての理解を深めること②子ども家庭福祉について関わる施設や機関について学ぶこと③エンパワメント・ストレングスの概念から子ども・家庭に関わる保育者の専門性の特徴を掴むことを目的とする。		
授業目標	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。		
到達目標1	子ども家庭福祉における基礎的な知識に対して幅広く興味・関心を持つことを目標とする。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み度(出席状況も加味　50点
到達目標2	子ども家庭福祉の各回のテーマで学んだ内容に対して感じたことを言語化する。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	各回授業の終わりに小レポート(感想を含む)　50点
授業方法	パワーポイント・映像資料などを用いた講義形式。		
授業計画	1　オリエンテーション		
	2 「子どもの権利」とは		
	3　子ども家庭福祉の歴史的展開		
	4　現代社会における「子どもと生活」		
	5　子育てをめぐる問題①		
	6　産学連携		
	7　子育てをめぐる問題②		
	8　保育サービス①		
	9　保育サービス②		
	10　子どもの遊びと福祉①（児童館とは）		
	11　子どもの遊びと福祉②（学童保育とは）		
	12　産学連携		
	13　子どもの遊びと福祉③(冒険遊び場とは)		
	14　子どもの居場所と福祉		
	15　子ども・若者の社会参加・参画		
必須テキスト	特に指定なし		
参考文献	特に指定なし		
担当教員の専門分野等	子ども・若者支援、プレイソーシャルワーク、遊びと福祉。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	40　%
	社会人としての基本	0　%	主体性 素直 思いやり	0　%
	他者と関わる力	0　%	専門的知識・技術	30　%

2025年度　講義要綱

科　目	社会福祉 必修 講義	講　師	久利 要子
授業概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、相談援助の実際について学ぶ。 子ども家庭支援の視点に立ち、最新動向をふまえて現場の実践に関連づけながら学習する。		
授業目標	1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。		
到達目標1	1.子育て家庭の生活課題について、現代の社会状況をふまえて広い視野で考えることができる。	到達目標1に対する評価 （方法及び配点）	授業への取り組み度(5点) 産学連携課題等の提出状況(20点) 確認レポート(25点)
到達目標2	2.相談援助や利用者保護の仕組みを理解し、社会福祉の今後の展望に自らの関心を向けていくことができる。	到達目標2に対する評価 （方法及び配点）	授業への取り組み度(5点) 産学連携課題等の提出状況(20点) 確認レポート(25点)
授業方法	講義形式。テキストの内容に関連する最新資料や映像教材なども活用していく。		
授業計画	1　初回ガイダンス・社会福祉の理念と概念		
	2　社会福祉の歴史的変遷		
	3　子ども家庭支援と社会福祉		
	4　社会福祉の制度と法体系		
	5　社会福祉の実施機関		
	6　産学連携		
	7　社会福祉の専門職		
	8　社会保障及び関連制度の概要		
	9　相談援助の理論		
	10　相談援助の意義と機能		
	11　相談援助の対象と過程		
	12　産学連携		
	13　相談援助の方法と技術		
	14　社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み		
	15　今後の展望・学習のまとめ（確認レポート）		
必須テキスト	『十訂　保育士をめざす人の社会福祉』相澤譲治編、株式会社みらい		
参考文献	『社会福祉小六法2025』ミネルヴァ書房　など（授業中に適宜、紹介します。）		
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。 保育士、社会福祉士として母子生活支援施設や高齢者在宅サービスの現場で相談業務を経験し、「ソーシャルワーカーとしての保育士の役割」を研究テーマとしている。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	30　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	20　%

2025年度　講義要綱

科　目	社会的養護Ⅰ 必修 講義	講　師	藤高 直之
授業概要	児童の養護は、児童本来の家庭における養護(家庭養護)と児童福祉施設、制度、機関による社会的養護の連携および協力によってはじめて十分なものとなる。このことをふまえて、とくに社会的養護における施設養護および里親制度のあり方について、歴史、制度、現状を理解し、また国の動向を把握する。さらに児童養護施設をはじめとする児童福祉施設における処遇に共通する養護上の基本原理を理解する。また、視聴覚教材および現場で実践されている職員の方の講話を通じて社会的養護の実態を知る。		
授業目標	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。		
到達目標1	社会的養護の概要について説明できる。また、各児童福祉施設の目的と機能、および設備運営基準について説明できる。	到達目標1に対する評価 （方法及び配点）	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関する筆記試験(30点)
到達目標2	社会的養護の現状と課題について、現代の社会的状況をふまえた上で指摘することができる。	到達目標2に対する評価 （方法及び配点）	討論への貢献度(20点)、発表・レポート(30点)
授業方法	講義中心で進めていくが、状況に応じて、事例考察やグループワークなどを取り入れて行っていく。		
授業計画	1　社会的養護の理念と概念		
	2　社会的養護の歴史的変遷		
	3　子どもの人権擁護と社会的養護		
	4　社会的養護の基本原則		
	5　社会的養護における保育士等の倫理と責務		
	6　産学連携回		
	7　社会的養護の制度と法体系及び社会的養護のしくみと実施体系		
	8　社会的養護とファミリーソーシャルワーク		
	9　社会的養護の対象と支援のあり方		
	10　家庭養護と施設養護		
	11　社会的養護にかかわる専門職		
	12　産学連携		
	13　社会的養護に関する社会的状況および施設等の運営管理の現状と課題		
	14　被措置児童等の虐待防止の現状と課題、テスト・振り返り		
	15　まとめ		
必須テキスト	新基本保育シリーズ6 社会的養護I 第2版中央法規出版　ISBN978-4-8058-8789-9		
参考文献	参考資料は授業時に紹介。		
担当教員の 専門分野等	子育て支援を中心とした子ども家庭福祉分野を専門とする教員。		

この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	40　%

2025年度　講義要綱

科　目	社会的養護Ⅰ　必修　講義	講　師	北川 裕子
授業概要	社会的養護の役割や援助内容を学ぶ。		
授業目標	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。		
到達目標1	現代社会における社会的養護の意義や課題について理解できる。 社会的養護の制度や実施体系,社会的養護の基本について理解できる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み(10点)、講義内容に対する筆記試験(40点)
到達目標2	子どもの人権を尊重すること、自立を支援することとは何かを考えることができる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み(10点)、提出物(40点)
授業方法	講義を中心に、保育現場での実践力を身につけられるよう事例研究やロールプレイ等の学習も行う。		
授業計画	1　社会的養護とは？(理念と概念)		
	2　社会的養護の歴史		
	3　子どもを取り巻く状況と社会的養護の意義・役割		
	4　児童観の変遷、子どもの権利擁護と社会的養護		
	5　施設内虐待の防止		
	6　産学連携		
	7　児童虐待		
	8　社会的養護の制度と法体系、仕組みと実施体系、社会的養護に関わる専門職		
	9　養護の基本原理		
	10　家庭養護		
	11　施設養護の実際(支援内容)		
	12　産学連携		
	13　施設養護とソーシャルワーク		
	14　運営管理(措置制度と利用契約制度、倫理の確立など) 社会的養護と地域福祉、今後の展望1		
	15　社会的養護と地域福祉、今後の展望2 筆記試験		
必須テキスト	図解で学ぶ保育 「社会的養護Ⅰ」 原田旬哉他編著　萌文書林 「ひと目でわかる　保育者のための児童家庭福祉データブック」 中央法規		
参考文献	参考資料は授業時に紹介。		
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。児童養護施設勤務経験あり。 児童家庭福祉・社会的養護分野を研究。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	15　%
	社会人としての基本	15　%	主体性 素直 思いやり	15　%
	他者と関わる力	15　%	専門的知識・技術	20　%

2025年度　講義要綱

科　目	保育の心理学 必修 講義	講　師	小沢 恵美子
授業概要	保育所にいる乳幼児期を中心に、子どもの発達について学習する。 今までの自分の経験と授業内容を関連させて、子どもの行動や人間の発達を理解する。		
授業目標	1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。		
到達目標1	子どもの発達に関する心理学の基本的知識に基づき、子どもの発達について具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	講義内容に関する筆記期試（50点）
到達目標2	自分が保育者となった時のことを考えながら、子どもや保護者への具体的な対応を述べることができる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組みやリアクションペーパー（15点）、レポート（35点）
授業方法	テキストを使いながら、授業内容をプリントにまとめていく。 可能であれば各自の考えを発表する機会なども設ける。		
授業計画	1　ガイダンス、子どもの発達と環境		
	2　情緒の発達		
	3　自我の発達		
	4　愛着の形成		
	5　愛着行動と愛着の発達		
	6　産学連携		
	7　社会的相互作用		
	8　認知の発達①		
	9　認知の発達②		
	10　コミュニケーションの発達		
	11　乳幼児期の学びにかかわる理論		
	12　産学連携		
	13　動機づけ		
	14　発達障害について		
	15　全体のまとめ		
必須テキスト	『保育の心理学　実践につなげる、子どもの発達理解』井戸ゆかり編著、萌文書林		
参考文献	授業中に適宜紹介します。		
担当教員の専門分野等	発達心理学や教育心理学の授業を担当してきました。発達心理学でも「子ども（幼児期）」の分野に興味があります。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	20　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	15　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	30　%

2025年度　講義要綱

科　目	子どもの理解と援助 必修 講義	講　師	藤高 直之
授業概要	様々な児童福祉施設で生活する子ども達の様子、現状を学ぶ中で、子どもの「発達」を捉える視点を養う。子どもの健やかな発達に必要な「環境」と「関わり」について理解を深め、その担い手になるための準備を進める。		
授業目標	1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する		
到達目標1	子どもの育ちを支える児童福祉施設について、主要施設の概要や現状について説明できる	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	講義内容に関する筆記試験(40点)
到達目標2	子どもの育ちを支える児童福祉施設への興味を養い、担い手となる自分をイメージし、自らに必要な準備を進めることができる	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み姿勢（20点）、講義内容に関するレポート試験（40点）
授業方法	ワークシートを用いた講義		
授業計画	1　オリエンテーション：「子どもの理解とは？」（授業概要・目標・評価・持物等の説明）		
	2　子どもの育ちを支える現場を知る		
	3　子どもの育ちを支える現場①：乳児院		
	4　子どもの育ちを支えるために必要なこと①：乳児院の現場から		
	5　子どもの育ちを支える現場②：児童養護施設		
	6　産学連携週		
	7　子どもの育ちを支えるために必要なこと②：児童養護施設の現場から		
	8　子どもの育ちを支える現場③：母子生活支援施設		
	9　子どもの育ちを支えるために必要なこと③：母子生活支援施設の現場から		
	10　子どもの育ちを支える現場④：障害児入所施設		
	11　子どもの育ちを支える現場⑤：障害児通所施設		
	12　産学連携週		
	13　生涯にわたる支援の現場：障害者入所施設／通所施設		
	14　「理解と援助」のために：障害者支援施設の現場から		
	15　学期末試験		
必須テキスト	『ひと目でわかる　保育者のための児童家庭福祉データブック2025』全国保育士養成協議会（監修）、宮島清・山縣文治（編集）、中央法		
参考文献	授業中に適宜紹介する		
担当教員の専門分野等	子ども家庭福祉（主に子育て支援）が専門。大学教員と並行して社会福祉士及び保育士として、大学付属の子育て支援センターで活動中。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	20　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	20　%

2025年度　講義要綱

科　目	子どもの保健 必修 講義	講　師	竹内 麻貴
授業概要	1. 子どもの健康の定義や保健の意義を理解する。 2. 子どもの生理的解剖および機能を学び、子どもの健康維持に必要な身体的知識を理解する。 3. 子どもの心身の発達について基礎的な知識を理解する。		
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。		
到達目標1	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解できる。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。	到達目標1に対する評価 （方法及び配点）	筆記試験50点
到達目標2	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。	到達目標2に対する評価 （方法及び配点）	提出物（課題、リアクションペーパーなど）40点 授業参加態度（授業態度やグループワーク参加態度など）10点
授業方法	1. パワーポイントや図、グループワークなども取り入れ、内容の理解につなげ、学生と考えながら学ぶ授業構成とする。 2. 保育士、保護者、児などのあらゆる立場から健康を理解するような方法を取り入れる。 3. 興味を持ちながら更に理解できるように看護師及び子育ての体験談、社会報道の紹介等の工夫を行う。		
授業計画	1　・心身の健康の定義と保健の意義、学ぶ必要性を理解する。 ・自己紹介		
	2　・母体の妊娠～出産までの経過および、新生児の特徴を学び理解する。 ・胎児期～出生時の障害児を学ぶ。		
	3　・体のつくりを知る ・臓器などの働きを知る		
	4　・身体発育・運動機能発育の特徴を学び、理解する。 ・脳神経系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・脳、神経、原始反射など。		
	5　・子どもが病気になった時、体調不良の表現方法や知らせ方など子どもならではの特徴を学び、理解する。 ・循環器系の生理的機能と発達および疾患 ・心臓、血管、血液、脈拍、血圧など。		
	6　課題を提出する 課題：保育室内や園庭で子どもたちの安全を守るための環境構成や工夫など気がついた点をあげてください。		
	7　・呼吸器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・肺、呼吸のしくみ、上気道炎、SIDSなど。		
	8　・消化器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・胃、腸、胃腸炎、下痢など。		
	9　・睡眠とホルモンの関係を知る ・成長と睡眠の大切さを知る		
	10　・感覚器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・目、鼻、口、耳、触覚などの感覚器。		
	11　・感覚器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・目、鼻、口、耳、触覚などの感覚器。		
	12　課題を提出する 課題：保育者は子どもたちに対してどのような暑さ対策（熱中症対策）をしていましたか？		
	13　・悪性腫瘍、障害など。		
	14　・院内保育、病棟保育士など		
	15　定期試験		
必須テキスト	『子どもの保健と安全』高内正子、教育情報出版		
参考文献	授業中に紹介および適宜プリントや資料を配布。		
担当教員の 専門分野等	国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。（産婦人科、外科、呼吸器科など）。 取得資格・・看護師、介護福祉士、ケアマネージャー、医療的ケア教員資格取得。 出産後、小児科クリニック看護師業務。 看護業務と共に、大学、短大など兼任講師を行う。 テキスト『子どもの保健と安全・第5章』執筆。 女性の家事・育児と言う視点で国際女性会議にて講演を行う。 子育て支援コミュニティ「KiraKira」発行。母子支援NPO「SKIP」を設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。		

この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5　%
	社会人としての基本	5　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	60　%

2025年度　講義要綱

科　目	子どもの保健	必修 講義	講　師	尾近 千鶴
授業概要	1. 子どもの発育、発達の特性と、心と身体の健康を維持し、増進する働きかけについて学ぶ。 2. 先天的な条件や養育、環境の影響を受けやすい面を考慮し、その子なりに健やかに育ち、自立した生活が送れるように、周囲の大人や社会の適切な対応について理解を深める。			
授業目標	1. 子どもの心身の健康を維持、増進する保健活動の意義について理解できる。 2. 子どもの心身の発育・発達の特性について理解できる。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。			
到達目標1	総合的に保育することを理解し、乳幼児の発育、発達を踏まえた保健の内容について、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	テスト(20点)＋課題レポート(20点)＋日常点・授業への取り組み(10点) ＝合計(50点) 意欲的、積極的な取り組みを評価する。	
到達目標2	具体的な保育場面を想定し、環境の構成、保育士の配慮事項を含む、保健的な対応を組み立てることができる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	テスト(20点)＋課題レポート(20点)＋日常点・授業への取り組み(10点) ＝合計(50点) 意欲的、積極的な取り組みを評価する。	
授業方法	対面授業と遠隔授業。Teamsの機能を活かした資料の配布と課題提出の推進を図る。 自分の考えを発表する機会を設定する。 様々な形式で演習問題に取り組み、知識の定着と臨床で活かせる知恵を身につける。 ※内容、回は授業の進行等により変更することがある。			
授業計画	1　ガイダンス 子どもの健康と保健 保健活動の意義と目的 子どもの出生と母子保健の意義			
	2　現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 出生・死亡　発育の変化			
	3　子どもの身体的発育と運動機能の発達			
	4　生理機能の発達と生活習慣			
	5　子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握			
	6　産学連携			
	7　子どもの免疫の発達と感染症の特徴			
	8　感染症の予防および適切な対応			
	9　救急疾患の特徴と適切な対応			
	10　新生児の病気、新生児期にわかる先天性の病気の特徴と対応			
	11　アレルギー疾患の特徴と適切な対応			
	12　産学連携			
	13　慢性疾患の特徴と適切な対応			
	14　地域における保健活動と子どもの虐待防止 保護者との情報共有と家族の支援			
	15　子どもの健康診断と関連機関との連携 まとめ　テスト			
必須テキスト	「授業で現場で役に立つ！　子どもの保健　テキスト」小林美由紀編著　診断と治療社			
参考文献	授業中に紹介する。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。国内外での教育機関などでの勤務。 子ども学分野を研究。文学博士。			

この授業で身につく「6つの力」				
	職業に対する理解	15　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	15　%
	社会人としての基本	15　%	主体性 素直 思いやり	15　%

[illegible]	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	25 %

2025年度　講義要綱

科　目	子どもの食と栄養 必修 講義	講　師	大野 康子
授業概要	・子どもの発達、発育過程における食生活と栄養の特性について学ぶ。 ・自らの食への意識や食生活を省み、適切な食習慣を実践する力を身につける。 ・特別な配慮を要する子どもについて理解し、子どもがどのように食を営む力を育んでいけばよいか、実践に対応できる支援方法を学ぶ。		
授業目標	・健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的な知識を習得する。 ・学んだ知識を保育の実践に活かし、具体的な食生活支援及び、食育の場で活用できる力を養う。 ・関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（平成31 年改訂版）」厚生労働省		
到達目標1	人の身体と食の関係を把握し、子どもの成長・発達と食について説明することが出来る。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み度(20点)・講義内容に関する筆記試験(30点)→合計50点
到達目標2	子どもの精神的、身体的発達状況、食環境に配慮して多角的観点から食の支援について説明出来る。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	討論へ貢献度(30点)、講義内容に関する筆記試験(20点)→合計50点
授業方法	テキストや参考文献のプリントでの講義。 課題に対してグループ討議する。		
授業計画	1　オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持ち物等の説明)・子どもの健康と食生活の関係		
	2　栄養に関する基礎的知識(栄養素の種類と機能)糖質と脂質		
	3　栄養に関する基礎的知識(栄養素の種類と機能)　たんぱく質		
	4　乳児期の授乳・離乳の意義と食生活		
	5　幼児期の心身の発達と食生活(食の好き嫌い・偏食)		
	6　産学連携「環境・子どもの姿」		
	7　産学連携の振り返り・保育所における食生活		
	8　子どもの食生活の現状と課題		
	9　乳幼児の食事提供について(保育者の配慮と支援)		
	10　特別な配慮を要する子どもの食と栄養(アレルギー食の対応)		
	11　特別な配慮を要する子どもの食と栄養(病児・宗教食への対応)		
	12　産学連携「保育者の姿・保育者と子どもとの関わり」		
	13　産学連携の振り返り　・食育の基本的な考え方		
	14　食育アクティビティ体験		
	15　まとめ・筆記試験		
必須テキスト	子どもの食と栄養【新版】北大路書房		
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントして配布する。		
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員の授業」に該当。 長年保育現場(幼稚園、0.1.2歳保育所、病児保育)に携わる。現在は幼稚園、保育園での食育アクティビティ講師、養育者や保育者向けの研修講師として活動。幼児の食行動について研究を進めている。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	20　%
	他者と関わる力	20　%	専門的知識・技術	30　%

2025年度　講義要綱

科　目	子どもの食と栄養	必修 講義	講　師	髙尾 優
授業概要	栄養に関する基礎知識を身につけ、子どもの発育・発達に必要な栄養、および成人の栄養について学び、自身の食生活についても考える力を養う。 また、保育の現場で重要な食育について学ぶ。児童福祉施設や家庭での食と栄養、食の安全、疾患のときの食と栄養、肥満ややせの子どもの食と栄養、障がいのある子どもの食と栄養についても学習する。			
授業目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成24年3月、厚生労働省)等			
到達目標1	栄養の基礎的な知識を身に付け栄養素の働きについて説明できる。 乳幼児期に必要な栄養について理解し、成長期に必要な食事について説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への積極的な参加及び取り組み(20点) 課題・レポートの提出(30点)	
到達目標2	子どもたちをとりまく環境について考え、子どもの食生活の現状と課題について理解できる。 体調不良の際の食事について理解できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への積極的な参加及び取り組み(20点) 課題・レポートの提出(30点)	
授業方法	講義および演習を行う。授業内容の復習のための小テストを実施する。			
授業計画	1　子どもの健康と食生活の意義(子どもを取り巻く環境、子どもの食生活の現状と課題)			
	2　栄養に関する基本的知識①　栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能			
	3　栄養に関する基本的知識②　消化と吸収、栄養素の代謝			
	4　栄養に関する基本的知識③ 栄養バランスのとれた食事、調理の基本			
	5　発育・発達と食生活①　小児期の発育と発達、妊娠・授乳期の栄養			
	6　産学連携			
	7　発育・発達と食生活②　乳児期の栄養(乳汁栄養・離乳栄養)			
	8　発育・発達と食生活③　幼児期・学童期の食生活			
	9　食育の基本			
	10　児童福祉施設や家庭における食事と栄養			
	11　食の安全(食中毒)			
	12　産学連携			
	13　特別な配慮を要する子どもの食と栄養①　体調不良および疾病の子どもへの対応			
	14　特別な配慮を要する子どもの食と栄養②　食物アレルギーのある子ども			
	15　特別な配慮を要する子どもの食と栄養②　障がいのある子どもへの対応			
必須テキスト	今津屋直子・久藤麻子編著　新・子どもの食と栄養〔第2版〕 教育情報出版　2025			
参考文献				
担当教員の 専門分野等	小児栄養学(食育、食物アレルギー)			

この授業で 身につく 「6つの力」				
	職業に対する理解	20　%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	40　%

2025年度　講義要綱

科　目	保育の計画と評価 必修 講義	講　師	佐藤 博美
授業概要	保育の計画と評価とはなにかを理解する。保育の計画と実践との関係を体験を通して学びを深め、知識を技能を身につける。		
授業目標	1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 3. 保育のPDCAを理解し、活用することができる。		
到達目標1	保育における保育計画の意義と重要性を理解することができる。 子ども理解に基づく保育実践を体験し、子どもはあそびにより学び、成長している事を説明することができる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み(30%)、テスト(20%)
到達目標2	子ども主体の指導計画の意味を理解し、指導計画を立案することができる	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	テスト(20%),課題（30%）
授業方法	講義、調べ学習、発表など		
授業計画	1　保育に関する法令、制度を基本に認定保育所が保育をしている事を理解する		
	2　保育の指導計画の種類を知る		
	3　保育所保育指針を基準にした具体的な目標について知る		
	4　PDCAを理解し、常に目標とふりかえりを繰り返して保育に携わる意識を持つ		
	5　子どもの環境を整える重要性を理解する		
	6 「子どもが主体的に活動できる（子どもがやりたいことを見つけ、活動できる）保育環境の工夫をみることができましたか。また、それは具体的にどのようなものであったかを教えてください。		
	7　指導計画を作成する際の留意する点について知る		
	8　指導計画の立案に挑戦する		
	9　自ら立案した指導計画ををふりかえり、改善点を考える		
	10　今までの学習した知識を活かしながら、調べ学習を進める		
	11　様々な指導計画があり、細かい配慮と計画の上に保育が実践されている事を知る		
	12 「子どもの主体性を尊重していると感じる保育者の関わりをみてくることができましたか。またそう感じた場面のエピソードを教えてください。		
	13　子育ては、みんなで行う事が子どもの幸せにつながる事を理解する		
	14　学びをまとめ、試験対策を行う		
	15		
必須テキスト	マンガでわかる「保育所保育指針」中央法規		
参考文献			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。幼稚園、保育所勤務経験。研究領域発達支援、グローバル保育。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	20　%	専門的知識・技術	30　%

2025年度　講義要綱

科　目	保育の計画と評価 必修 講義	講　師	村山 久美
授業概要	保育における計画の意義・目的を学ぶ 子ども理解を基に保育過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）を学ぶ 指導計画の実際について学ぶ		
授業目標	1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 3. 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。		
到達目標1	質の高い保育実践のための保育の計画及び評価について理解することができる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み（20点） 講義内容に関する筆記課題（30点）
到達目標2	全体的な計画と指導計画について、意義と方法を理解し、作成することができる	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み（20点） 計画の作成（30点）
授業方法	講義形式、指導計画の作成・発表（ICTの活用、協働学習を含む）		
授業計画	1　オリエンテーション 保育の目標と計画の考え方		
	2　保育におけるカリキュラムとは		
	3　子ども理解に基づくPDCAサイクルの循環		
	4　全体的な計画とは		
	5　長期的な指導計画の作成（0・1・2歳児）		
	6　産学連携 課題「子どもが主体的に活動できる（子どもがやりたいことを見つけ、活動できる）保育環境の工夫をみることができましたか。また、それは具体的にどのようなものであったかを教えてください。」		
	7　長期的な指導計画の作成（3歳以上児）		
	8　短期的な指導計画の作成（0・1・2歳児）		
	9　短期的な指導計画の作成（3歳以上児）		
	10　指導計画作成の留意事項①		
	11　指導計画作成の留意事項②		
	12　産学連携 課題「子どもの主体性を尊重していると感じる保育者の関わりをみてくることができましたか。またそう感じた場面のエピソードを教えてください。」		
	13　指導計画に基づく保育の展開		
	14　保育の記録と省察、評価と改善		
	15　試験 「部分実習指導計画の作成」		
必須テキスト	『保育の計画と評価演習ブック』ミネルヴァ書房		
参考文献	保育所保育指針		
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。保育所園長歴10年。「言葉」「子育て支援」「実習指導」を専門に研究。研究実績あり。『子どもの理解と援助』一藝社、第3章執筆。『子どもの文化』共感共鳴共有すること、『あそびと環境0・1・2歳 12月号』連絡帳の書き方講座(P.38~41) gakken執筆。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	40　%

2025年度　講義要綱

科　目	保育内容総論 必修 講義	講　師	遠藤 祐太郎
授業概要	保育現場で必要とされる保育内容の基本的知識を学ぶ。 現代の保育を事例にし、保育士の役割、専門的知識、子どもの発達について理解を深める。		
授業目標	1.保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質、能力」「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章の繋がりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画、実践、記録、省察、評価、改善）につなげて理解する。 4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。		
到達目標1	保育内容について基本的な知識を理解し、柔軟に活用することができる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業内課題 50
到達目標2	ディスカッションやグループワークを生かし、保育士の専門的知識、子どもの発達、特徴など具体的なことを理解し、説明することができる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	グループ制作 50
授業方法	講義、ディスカッション、グループワーク、		
授業計画	1　オリエンテーション 授業の進め方 保育内容とは		
	2　保育環境 保育者の役割		
	3　乳児クラスについて（0歳児）		
	4　乳児クラスについて（1歳児）		
	5　乳児クラスについて（2歳児）		
	6　幼児クラスについて（3歳児）		
	7　幼児クラスについて（4歳児）		
	8　幼児クラスについて（5歳児）＋学童保育		
	9　保育園の行事について		
	10　子どもの多様性、早生まれ、障害児保育		
	11　海外の保育（デンマーク）		
	12　海外の保育 2（日本と比べて）		
	13　発表準備		
	14　デンマークのクリスマス飾り		
	15　発表（振り返り）		
必須テキスト	なし		
参考文献	保育所保育指針、保育内容総論		
担当教員の専門分野等	デンマークと日本の保育園に勤務。0歳児から小学生までの保育を経験。保護者とカウンセリングを積極的に行う。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	20　%
	他者と関わる力	20　%	専門的知識・技術	20　%

2025年度　講義要綱

科　目	保育内容総論 必修 講義	講　師	岩井 英之
授業概要	この科目では保育内容を総合的にとらえ、基本的な目的や方針、実践方法についての理解を深める。また、実際の保育現場の事例を通して子どもの発達に応じた支援、遊びや環境の重要性、保育計画の立て方などを知る。		
授業目標	1、多様な考え方や保育者、環境と出会う事によって、自分なりの考え、保育者像、環境イメージを持つ。 2、互いの意見を知る経験を重ねることにより、合意形成する力を養う。 3、子どもの発達や実態を知り、それらに応じた具体的な保育の方法や内容を知る。		
到達目標1	子どもの発達や実態を知り、それらに応じた具体的な保育の方法や内容を知り、保育者像を持つことが出来る。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	レポート(25点)、テスト(25点)
到達目標2	他者と関わることを通して(ディスカッション等)、自分を知ること他者（大人、子ども）を知る大切さに気付くことが出来る。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	討論への貢献度(25点)、授業への取り組み度(25点)
授業方法	講義、ディスカッション、個人ワーク、グループワーク		
授業計画	1　ガイダンス、保育園・保育者のイメージ		
	2　保育者の役割、保育園の一日		
	3　保育環境について		
	4　子ども同士の関わりについて考える		
	5　食育を通した子どもたちの成長		
	6　見学		
	7　子どもの人権　養護と教育		
	8　保育者に求められる専門性について		
	9　主体的な保育について		
	10　個と集団の発達を踏まえた保育		
	11　保育の歴史的変遷		
	12　見学		
	13　保育計画について考える		
	14　地域との連携、小学校等との連携を踏まえた保育		
	15　テスト		
必須テキスト	保育所保育指針		
参考文献			
担当教員の専門分野等	保育園に16年勤務。主任、副園長と経験し、現在は園長として勤務。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	20　%
	他者と関わる力	20　%	専門的知識・技術	10　%

2025年度　講義要綱

科　目	保育内容の理解と方法・身体表現遊びⅠ　必修　講義	講　師	真砂 雄一
授業概要	子ども達に運動遊びの楽しさを教えるためにも、まずは学生自身が運動遊びを体験する。 そして、子どもたちの表現と運動に関する知識を身に付ける。 環境構成について考え、展開するための技術を学ぶ。		
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。		
到達目標1	子どもの運動、表現遊びについての基礎知識を説明できる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み度（20点）、講義内容に関するレポート（30点）
到達目標2	子どもの発育発達に沿った運動遊びについて理解し、実践できる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	グループワークでの貢献度（20点）、実践発表（30点）
授業方法	保育現場でどのような運動遊びが求められているか、実践を通し考えを深めていく。 運動遊びの援助・指導・安全管理等、環境構成、計画立案等、様々な形の学習を体験する。 1回目はガイダンス、15回目はレポート試験のため自教室で座学形式で行う。 2回目以降から7階A71教室にて、実際に身体を動かす運動遊びを実技形式で行う。 ＊1回目のガイダンスにて、2回目以降の運動遊びに関する詳細を伝える。 ＊進行状況に合わせ内容や順番を適宜変更する。		
授業計画	1　ガイダンス、幼児期に必要な運動とは①		
	2　からだほぐし、からだづくり運動		
	3　身体表現、リズム遊び		
	4　ボール遊び		
	5　運動遊び実践とは、運動遊びにおける環境構成（オンライン）		
	6　産学連携		
	7　リレー種目、運動会種目		
	8　運動遊び実践の計画立案作成／グループ決め		
	9　運動遊び実践①		
	10　運動遊び実践②		
	11　幼児期に必要な運動とは②（オンライン）		
	12　産学連携		
	13　運動遊び実践③		
	14　運動遊び実践④		
	15　身体表現遊びのまとめ、振り返り、レポート試験		
必須テキスト	特に必要なし		
参考文献	授業中に紹介する		
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。 長年保育現場で幼児体育指導員、保育士への運動指導アドバイザーをしており、今現在も保育園で子どもたちに運動遊びを教えている。 小学校で体育テクニカルアドバイザーの経験もあり。 現在は、保育系短大の学科長であり、幼児体育や健康を担当する教授として勤務。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	20　%	専門的知識・技術	40　%

2025年度　講義要綱

科　目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅠ　必修　講義	講　師	浦 啓子、佐藤 季里、杉橋 祥子、竹田 えり
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。歌遊びのグループレッスンを45分、ピアノ等の個人レッスンを45分、グループ分けに従って教室を移動して受講する。		
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。		
到達目標1	教科書に沿って鍵盤楽器(ピアノ等)の基礎を学びつつ自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨むことが出来る。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に鍵盤と手元を映すよう工夫すること。		
授業計画	1　前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(Ⓐ Ⓑ2グループに分かれて45分で入れ替わる)		
	2　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。		
	3　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。)		
	4　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法)		
	5　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。		
	6　産学連携第6週課題:手遊びやわらべ歌、リズム遊びや子どもの歌等、音楽遊びは現場でどのように活用されていましたか？またピアノやリズム楽器、その他の音楽遊びの環境はどのように設定されていたか、教えてください。		
	7　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑわらべ歌・手遊び歌の演習		
	8　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ童謡・唱歌等の子どもの歌の演習		
	9　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ)		
	10　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑリトミックを含む歌遊びの演習		
	11　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。		
	12　産学連携第12週目課題:保育者が子どもの歌やリズム遊び、わらべ歌等を用いて子どもたちと関わるシーンはありましたか？その働きかけによって子どもたちの心や行動はどのように変化しましたか？感じたことを教えてください。また、そのようなシーンに出会わなかった方は、自分		
	13　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。		
	14　実技試験に向けてのリハーサルと個別指導　(Ⓐ Ⓑ共)		
	15　実技試験(発表会)と各自の振り返り(ⒶⒷ共)		
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社		
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編		
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子　東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	15　%
	他者と関わる力	15　%	専門的知識・技術	40　%

2025年度　講義要綱

科　目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅠ　必修　講義	講　師	廣田 篤憲
授業概要	現場で役に立つ実践的な課題を制作し、造形の技法を身につけその能力を高め指導者としての能力を養い身につけ、絵画造形の技法および指導方法を身につける。		
授業目標	1. 幼児の造形教育の背景について理解し、育みたい「資質・能力」を知り、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿を目標として、その基礎的な造形能力・表現力および指導方法を身につける。 2. 造形における教材・素材等の活用及び作成と、造形教育の環境の準備構成、指導現場で展開できる技術と表現力を実践的に習得する。 3, 子どもが生活や造形遊びにおいて体験していることを捉え、造形教育で留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材等の活用と工夫、保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の実際について理解する。		
到達目標1	到達目標1. 子どもの造形活動について理解し、造形能力の発達段階に応じた造形指導ができるようになる	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み度（20点）、制作した作品への取り組み（30点）
到達目標2	保育現場を考慮し、子どもの造形能力に応じた、造形環境を準備し造形遊びの内容を構成することができる	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	作品の制作の指導方法の理解（30点）、造形環境の準備内容の把握（20点）
授業方法	準備された画材・素材を使用して造形作品を制作しつつ、現場での指導方法を考え習得する。多種多様な表現方法を学び身につける。		
授業計画	1　保育における造形表現の意味、造形表現の基礎知識（色彩、画材などの基礎知識）、造形表現の描画における発達段階と児童画の特徴を学ぶ（クレヨン・クレパスで体験する） ・教科書：P.112~P.119 造形表現の描画における発達段階と児童画の特徴を学ぶ（クレヨン・クレパスで体験する ・教科書：P.218		
	2　クレヨン・クレパスを使って虹色の形を作ろう（指を使って画材の特性を知る） ・教科書：P.58 デカルコマニーについて7 ・教科書：P.68、P.123		
	3　バチック（はじき絵）、油性のクレヨンと水彩絵の具の性質を生かして ・教科書：P.56		
	4　画用紙をZ折りにして、展開して変化することを楽しむ絵を描く ・教科書：P.140		
	5　紙コップを使った工作（タコを作ろう） ・教科書：P.80		
	6　産学連携		
	7　マーブリングで紙に模様をつけ魚釣り遊びのオモチャを制作する：その1. 和紙ハガキを使ってマーブリング制作 ・教科書：P.117、P126		
	8　マーブリングで紙に模様をつけ魚釣り遊びのオモチャを制作する：その2. マーブリングを施した紙を使って魚の工作、竹ひごなどを使って釣り竿作り ・教科書：P.177		
	9　にじみ絵の技法を使ってシャボン玉を表現する：その1. ・教科書：P.147		
	10　にじみ絵の技法を使ってシャボン玉を表現する：その2. ・教科書：P.147		
	11　ペーパークラフト［アニマルフェイス］ ・教科書：P.144		
	12　産学連携		
	13　ひっかき絵（スクラッチ）、平面技法の応用 スクラッチの技法を使ってメダルを作ろう ・教科書：P.58、P.124		
	14　クレヨン画の技法を身につける リンゴをクレヨンで描く：その1.		
	15　クレヨン画の技法を身につける リンゴをクレヨンで描く：その2.		
必須テキスト	幼児造形の基礎　萌文書林 著者：樋口一成 編著		
参考文献			
担当教員の専門分野等	多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業　中・高等学校美術科教諭を経てイラストレーション、機械式腕時計内部の鉛筆細密デッサン、立体作品、ペーパークラフト、アーマチュアの制作、アートディレクションなど		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	50　%

2025年度　講義要綱

科　目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅠ　必修　講義	講　師	髙木 秀文
授業概要	親しみのある画材や身の回りにある素材を使って表現活動する「造形」を子どもと一緒にあそぶように保育者自身も楽しめるための知識と技能を身につける。		
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。		
到達目標1	子どもの造形活動を深く理解して寄り添い、指導と同時に支援する行動を自ら取ることができる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	製作課題への積極的な取り組み(30点)、特定課題(事前告知)の仕上がり(20点) 意欲的な取り組みを評価します。
到達目標2	季節や行事に沿った造形遊びのアイデア、引き出しを増やして子どもに向けた幅広い造形活動ができる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	製作課題への積極的な取り組み(30点)、特定課題(事前告知)の仕上がり(20点) 意欲的な取り組みを評価します。
授業方法	幼児期の絵画表現を擬似的に再現して造形活動への理解と興味を深める。 身近な素材を使った製作物を作り、成果を共有する。		
授業計画	1　オリエンテーション 授業内容、教材、用具、評価の説明。 児童画を鑑賞して気づいた点をコメントして共有します。 貼り絵の製作課題の準備として身の回りの用紙集めの説明。		
	2　幼児期の造形表現の道すじ-1 なぐり描き期の説明と作例の共有をします。 関連演習ー背面向きで顔を描く。		
	3　幼児期の造形表現の道すじ-2 象徴期の説明と作例の共有をします。 関連演習ー身の回りの顔さがし。		
	4　幼児期の造形表現の道すじ-3 図式期の説明と作例の共有をします。 関連演習ー絵描き歌を考える。		
	5　貼り絵製作 1 身の回りで集めた用紙、色紙を用いて貼り絵のお弁当を作ります。		
	6　産学連携		
	7　貼り絵製作 2 貼り絵のお弁当を入れるリュックサックを色画用紙で製作します。		
	8　紙粘土製作 1 粘土玉作り、ペットボトルへ貼り付け、色粘土作り。		
	9　季節ごとの行事やテーマを考える 6月にまつわる風物や行事から題材を取った絵とお話作り。		
	10　紙粘土製作 2 粘土1で作った粘土玉で頭足人を製作、他製作物の共有します。		
	11　折り紙製作 折り方と切り方を変えながら各種花びらを製作します。		
	12　産学連携		
	13　デカルコマニー すり合わせ版画の製作と見立てた結果を共有します。		
	14　紙染め製作 キッチンペーパーを使った揉み紙と紙染めをします。		
	15　はじき絵製作 油性クレヨンと水彩絵具ではじき効果を共有します。		

必須テキスト	特になし。			
参考文献	授業内で適宜紹介します。			
担当教員の専門分野等	絵画(日本画)制作。埋蔵文化財修復技師。幼稚園の課外造形授業、美術研究所の児童画教室の勤務歴あり。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心をもち学び続ける力	15 %
	社会人としての基本	15 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度　講義要綱

科　目	乳児保育Ⅰ 必修 講義	講　師	中村 直美
授業概要	乳児保育の意義、目的、歴史、役割等の基本を学び、乳児の成長、発達の過程を学習します。また、その発達の姿を追いながら援助の方法や保育内容等の基本を学びます。		
授業目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。		
到達目標1	1, 乳児保育の意義や目的、歴史などの基本的な知識を知り具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み度、課題提出（30点）講義内容に関する筆記試験（20点）
到達目標2	2, 乳児の成長、発達過程等を知り、保育の中でのその姿を想定しながら配慮事項などを具体的に説明できる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み度、課題提出（30点）講義内容に関する筆記試験（20点）
授業方法	1, パワーポイントを使用した講義 2, 乳児向けの手遊びや絵本、紙芝居の紹介		
授業計画	1　オリエンテーション（この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について）		
	2　乳児保育とは		
	3　乳児保育の歴史について		
	4　乳児保育を支える法律について（児童福祉法、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準など）		
	5　乳児保育の基礎知識①　人間の赤ちゃんは無力なの？（ポルトマンの生理的早産と乳児の生得的な特性）		
	6　産学連携　・「乳児が大切にされている」と感じたのはどのような場面でしたか？		
	7　乳児保育の基礎知識②　愛着形成（ボウルビィの愛着理論）		
	8　保育所での愛着形成について、1～2か月、3～4か月児の発達の特徴		
	9　5～6か月児の発達の特徴、　乳児の睡眠について		
	10　7～8か月児の発達の特徴、SIDSについて		
	11　9～10か月児の発達の特徴　乳児の授乳について		
	12　産学連携　・保育者はどのような雰囲気で乳児と関わっていましたか？		
	13　11～12か月児の発達の特徴　乳児の離乳食について		
	14　1歳～1歳6か月児の発達の特徴　1歳6か月～3歳未満児の発達の特徴		
	15　試験・まとめ		
必須テキスト	「はじめて学ぶ　乳児保育」 志村聡子編著者　同文書院		
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。		
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等（保育所、高齢者施設等）における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	30　%

2025年度　講義要綱

科　目	乳児保育Ⅰ　必修　講義	講　師	佐藤 めぐみ
授業概要	・乳児保育の意義・目的と役割を学び、乳児保育の現状と課題を知る。 ・3歳未満児の発育・発達をふまえた保育を学ぶ。		
授業目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す		
到達目標1	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解することができる	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	講義内容に対する小テスト2回×25点（50点）
到達目標2	多岐にわたる「乳児保育」の内容について知り必要な事は自ら調べリアクションペーパーにまとめることができる	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	発達表の作成と提出（30点）授業への取り組み（20点）
授業方法	授業で学んだ範囲を自ら調べたり、感じたことをリアクションペーパーへ記入してまとめる。 0～3歳の発達を学び発達表を作成、提出する。		
授業計画	1　オリエンテーション（授業概要・目標・評価・持ち物について等）		
	2　乳児保育はなぜ必要か		
	3　乳児保育の成り立ち		
	4　保育所保育指針から学ぶ		
	5　人生の基礎としての乳児期		
	6　産学連携　〈乳児が大切にされていると感じたのはどのような場面でしたか〉		
	7　小テスト（第1回～第5回までの授業を振り返る）		
	8　乳児のこころの発達		
	9　乳児のことばの発達		
	10　乳児のからだ		
	11　乳児保育の連携		
	12　産学連携〈保育者はどのような雰囲気で乳児と関わっていましたか〉		
	13　保育所の1日の流れ		
	14　小テスト（第8回～第13回までの授業を振り返る）		
	15　まとめ		
必須テキスト	「はじめて学ぶ　乳児保育」同文書院		
参考文献	授業中に適宜紹介		
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年私立保育園に勤務し、主任として実習指導や職員育成に携わる。専門は「乳児保育」。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	25　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	20　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	5　%
	他者と関わる力	5　%	専門的知識・技術	35　%

2025年度　講義要綱

科　目	乳児保育Ⅱ 必修 講義	講　師	中村 直美
授業概要	乳児保育Ⅰで学んだ3歳未満児の発達過程を踏まえて、実際の保育の場での援助方法、関わり方等を実習室での実習や、対応ワーク等で演習しながら学ぶ。		
授業目標	1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。		
到達目標1	1, 3歳未満児の発達過程やその特徴を理解し具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み度、課題提出(30点)講義内容に関する筆記試験(20点)
到達目標2	2, 3歳未満児の日常生活の援助の方法がわかり実践できる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み度、課題提出(30点)講義内容に関する筆記試験(20点)
授業方法	1, パワーポイントを使用した講義 2, 実習室での実技演習		
授業計画	1　オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について) 身支度、抱っこの仕方、おんぶの仕方の実際(講義＆実習)		
	2　乳児の衣服の基礎知識、衣服の着せ方、脱がせ方の基本について		
	3　乳児の排泄の基礎知識、オムツ交換の仕方の基本について		
	4　乳児の衣服の着脱方法、オムツ交換の実際		
	5　乳児のからだの清潔の基礎知識、沐浴の基本について		
	6　産学連携　・乳児クラス(0.1.2歳)の保育環境を見て配慮されていると感じたことを記入してください。		
	7　沐浴の実際①		
	8　沐浴の実際②		
	9　沐浴の実際③		
	10　授乳、冷凍母乳、離乳食の基礎知識について		
	11　事例ワーク		
	12　産学連携　・「保育者と乳児が関わっている場面を見て感じたこと」を記入してください。		
	13　かみつき、ひっかきについて考える①		
	14　かみつき、ひっかきについて考える②		
	15　試験・まとめ		
必須テキスト	「はじめて学ぶ　乳児保育」 志村聡子編著者　同文書院		
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。		
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	30　%

2025年度　講義要綱

科　目	乳児保育Ⅱ 必修 講義	講　師	佐藤 めぐみ
授業概要	・乳児保育の基本を知り、乳幼児期の生活と援助の方法を体験する。 ・3歳未満児の発育、発達をふまえた保育を深める。		
授業目標	1．3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2．養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3．乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4．上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。		
到達目標1	【実践】座学で学んだ抱っこ、沐浴、着替え、授乳を適切に行える。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	実技への取り組み（40点）授業への取り組み（10点）
到達目標2	多岐にわたる乳児保育について知り、毎回自分でリアクションペーパーに課題をまとめることが出来る。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	リアクションペーパー（50点）
授業方法	・講義内容から自分の考えをリアクションペーパーに記入 ・抱っこ、沐浴、着替え等の介助を実際に行う体験型学習		
授業計画	1　オリエンテーション（授業概要・目標・評価・持ち物等の説明）		
	2　だっこのしかた・おんぶのしかた		
	3　だっこのしかた・おんぶのしかた【実践】		
	4　乳児の衣服の基礎、衣服の着せ方・脱がせ方		
	5　おむつ替えとおむつはずれ		
	6　産学連携　〈乳児クラス（0.1.2歳）の保育環境を見て配慮されているなと感じたことを記述してください〉		
	7　赤ちゃんの着替えとおむつ替え【実践】		
	8　授乳の仕方と離乳食の基礎知識		
	9　授乳の仕方とその準備【実践】		
	10　乳児保育の安全管理		
	11　沐浴の仕方・清拭の仕方		
	12　産学連携　〈保育者と乳児が関わっている場面を見て感じたことを記述してください〉		
	13　沐浴の仕方・清拭の仕方【実践①】		
	14　沐浴の仕方・清拭の仕方【実践②】		
	15　まとめ		
必須テキスト	「はじめて学ぶ　乳児保育」同文書院		
参考文献	授業中に適宜紹介		
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年私立保育園に勤務し、主任として実習指導や職員育成に携わる。専門は「乳児保育」		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	5　%
	社会人としての基本	5　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	40　%

2025年度　講義要綱

科　目	子どもの健康と安全　必修　講義	講　師	姜 碧瑩
授業概要	子どもの健康と安全に関する基礎知識を学び、実践的な対応力を身につける。日常の健康管理、感染症対策、災害・緊急時の対応などを通じて、保育者としての役割についての理解を深める。		
授業目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成31年4月、厚生労働省)、「2018年改訂版保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月、こども家庭庁)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、こども家庭庁)等		
到達目標1	子どもの健康保持および安全維持に必要な知識を理解し、具体的に説明することができる。	到達目標1に対する評価(方法及び配点)	定期試験(50点)
到達目標2	具体的な保育場面を想定し、自らや仲間と考えながら、適切な対応策を講じることができる。	到達目標2に対する評価(方法及び配点)	・討論への貢献度(20点) ・提出物(課題、リアクションペーパーなど)(30点) →合計50点
授業方法	パワーポイントを用いた講義により基礎知識を習得し、グループワークによって実践的理解を深める。さらに、リアクションペーパーの記入を通して学びを振り返り、主体的な思考力を養う。		
授業計画	1　オリエンテーション(授業構成、進め方、評価などの説明)・保育における「健康」とは		
	2　子どもの健康と発育・発達		
	3　保育における健康管理(日常の観察・健康診断)		
	4　環境整備と衛生管理		
	5　事故防止と安全対策		
	6　産学連携 課題:保育室内や園庭で子どもたちの安全を守るための環境構成や工夫など気がついた点をあげてください。		
	7　体調不良時の対応		
	8　緊急時の対応		
	9　災害への備えと危機管理		
	10　感染症への理解と対応①(子どもに多い感染症)		
	11　感染症への理解と対応②(集団発生と予防)		
	12　産学連携 課題:感染症から子どもたちを守るために、保育者が行っていたこと(環境設定、働きかけ、声かけ等)を記入してください。		
	13　個別的な配慮を必要とする子どもへの対応		
	14　授業のふりかり		
	15　筆記試験		
必須テキスト	特になし(適宜プリントを配布)		
参考文献	授業中に紹介および適宜資料を配布		
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。 専門は「子どもの健康福祉」「健康管理」。人間科学博士。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	50　%

2025年度　講義要綱

科　目	子どもの健康と安全 必修 講義	講　師	竹内 麻貴
授業概要	1. 子どもの健康や安全を守る定義や意義を理解する。 2. 子ども生命維持に必要な知識を学び理解する。 3. 子どもの安全について基礎的な知識を理解し、具体的な対策等を考慮することができる。		
授業目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン（※）や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月、厚生労働省）、「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」（平成30年3月、厚生労働省）、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省）等		
到達目標1	「子どもの保健」で学んだ総合的に保育することを踏まえ、子どもの健康保持や安全維持するために必要な知識を理解し深めることができる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	定期試験（50%）
到達目標2	保育現場や保育活動を行う場面を想定し、具体的な安全対策および救急処置が行える。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	・授業参加態度（演習態度10%、授業態度10%） ・提出物（課題、リアクションペーパーなど）（30%） 合計50%
授業方法	・講義、演習、グループワーク等、授業内容にそった授業形式とする。 ・実際に起こった事故の検証、 ・子どもに起こりやすい事故の演習、 ・ポスターやマニュアルを作成　　などを通して事故予防の重要さを学ぶ。。		
授業計画	1　子どもの健康の維持と安全管理の必要性を考え、理解する。		
	2　子どもが体調不良を起こす原因、発生状況を知る。また予防法も理解する。		
	3　子どもが体調不良を起こしたときの観察点や応急処置の基本を学び、理解する。		
	4　事故予防について学ぶ。		
	5　けがや事故が発生しやすい箇所を見つけ、どんなけがが予測できるか、またその予防策を考える。		
	6　課題を提出する 課題：保育室内や園庭で子どもたちの安全を守るための環境構成や工夫など気がついた点をあげてください。		
	7　自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。		
	8　自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。		
	9　自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。		
	10　・誘拐や事件の予防について学ぶ。		
	11　・誘拐や事件の予防について学ぶ。		
	12　課題を提出する 課題：感染症から子どもたちを守るために、保育者が行っていたこと（環境設定、働きかけ、声かけ等）を記入してください。		
	13　実際に起こった事故を通して考えるグループワークを行う。		
	14　授業全体をふりかえる。		
	15　筆記定期試験を行う。		
必須テキスト	『新基本保育士シリーズ⑯子どもの健康と安全』松田博雄、中央法規		
参考文献	『子どもの保健と安全』高内正子、教育情報出版 授業中に紹介および適宜プリントや資料を配布		
担当教員の専門分野等	国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。（産婦人科、外科、呼吸器科など）。取得資格・・看護師、介護福祉士、ケアマネージャー、医療的ケア教員資格取得。出産後、小児科クリニック看護師業務と同時に、女性の家事・育児と言う視点で国際女性会議にて講演を行う。母子支援NPOを設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	10　%	専門的知識・技術	50　%

2025年度　講義要綱

科　目	社会的養護Ⅱ 必修 講義	講　師	藤高 直之
授業概要	社会的養護における養育上の課題や問題を抱えた家庭や子どもに対する公的な支援の実際を学ぶ。 また、支援の中心的な役割を担っているのが児童福祉施設についての理解を深める。		
授業目標	1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する 。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。		
到達目標1	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解し、施設養護及び家庭養護の実際について説明することができる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関する筆記試験(30点)
到達目標2	討論やロールプレイを通して社会的養護における支援の実際を理解し、社会的養護への関心を向けていくことができる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	討論への貢献度(20点)、発表・レポート(30点)
授業方法	事例検討を中心とした討論、ロールプレイを中心として実施する。適宜、社会的養護Ⅰの復習を講義形式で行う。		
授業計画	1　オリエンテーション・社会的養護内容とは何か（社会的養護Ⅰの復習を中心）		
	2　日常生活のなかに見る専門的援助の実際		
	3　施設養護の具体的な取り組みの実際（日常生活支援、治療的支援、自立支援）		
	4　施設の暮らし1－施設での生活を始めるということ		
	5　施設の暮らし2－施設の生活について（生活スタイルと日課）		
	6　産学連携		
	7　支援計画の実際と記録及び自己評価		
	8　自立への支援（リービングケア）の取り組み		
	9　施設退所後のアフターケアの取り組みの現状		
	10　社会資源としての児童福祉施設を考える		
	11　社会的養護に関わる専門的技術①（被虐待児への援助方法の実際）		
	12　産学連携		
	13　社会的養護に関わる専門的技術②（家庭復帰、家族再統合にむけた取り組みの実際）		
	14　社会的養護に関わる専門的技術③（子ども虐待防止の取り組み、家庭支援の実際）、テスト・振り返り		
	15　まとめ		
必須テキスト	テキストは指定しない。適宜、授業時にレジュメを配布する。		
参考文献	参考資料は授業時に紹介。		
担当教員の専門分野等	子育て支援を中心とした子ども家庭福祉分野を専門とする教員。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	20　%	専門的知識・技術	20　%

2025年度　講義要綱

科　目	社会的養護Ⅱ　必修　講義	講　師	北川 裕子
授業概要	施設や保育士の役割や援助等、基礎的な内容について具体的に学ぶ。 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。		
授業目標	1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。		
到達目標1	施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み(15点)、提出物(35点)
到達目標2	虐待の防止、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深めることができる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み(15点)、提出物(35点)
授業方法	事例研究やロールプレイ、児童自立支援計画の立案等を通し、保育現場での実践力を身につけられるような学習を取り入れる。		
授業計画	1　養護の基本原理等の復習、子どもの権利擁護		
	2　保育士の資質と倫理・責務、チームワーク		
	3　施設養護の生活特性および実際　①入所、日常生活援助		
	4　施設養護の生活特性および実際　②集団生活、家族調整		
	5　施設養護の生活特性および実際　③自立支援		
	6　産学連携		
	7　施設養護の生活特性および実際　④退所、アフターケア		
	8　施設養護の生活特性および実際　⑤記録の意味、個別支援計画の作成、自己評価		
	9　保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用　①心理的支援		
	10　保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用　②被虐待児への支援、親への支援		
	11　保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用　③障がい児への支援、親への支援		
	12　産学連携		
	13　里親等の家庭養護の特性及び実際		
	14　今後の施設の方向性（小規模化等）		
	15　今後の社会的養護の方向性（家庭的養護の推進、地域との関わり、展望等）		
必須テキスト	なし		
参考文献	「児童の福祉を支える　演習　社会的養護Ⅱ」吉田眞理著　萌文書林「図解で学ぶ保育「社会的養護Ⅱ」原田旬哉他　萌文書林		
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。児童養護施設勤務経験あり。 児童家庭福祉・社会的養護分野を研究。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	15　%
	社会人としての基本	15　%	主体性 素直 思いやり	15　%
	他者と関わる力	15　%	専門的知識・技術	20　%

2025年度　講義要綱

科　目	保育実習指導Ⅰa 必修 講義	講　師	佐藤 めぐみ
授業概要	実習日誌の記載方法を体得したり、実習に向けて具体的な準備を進め、実技の練習、心構えを養い、保育所実習を有意義なものにするために必要事項を学ぶ。		
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。		
到達目標1	子どもや保育士に対する理解を深め、現場での実習生としての自分の姿をイメージできる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	報連相ができている（現場連携週電話報告、オリ日程報告など）(20点)、提出物（保育教材、日誌など）(30点)
到達目標2	保育所実習に臨む態度や目的意識が持つことができる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	絵本準備・発表（20点）、指導案などの提出物（10点）、筆記試験（20点）
授業方法	講義、発表、グループワークなど		
授業計画	1　保育実習の概要　実習Ⅰ準備アンケート、ペープサート紹介		
	2　.実習の心得　個人票作成　エピソード日誌の基本を知る		
	3　保育所の1日の流れと保育内容の理解　実習目標を立てる ゲスト講師を招いて講義		
	4　エピソードの書き方の基本を知る 実習日誌を書く意義と記入の仕方		
	5　実習日誌:エピソード記録の書き方について 現場連携準備		
	6　産学連携		
	7　見学内容を記録する 実習課題下書き		
	8　部分実習指導計画について 実習に伴う書類作成　事務手続きの確認		
	9　オリエンテーションについて　実習日誌の書き方		
	10　グループワークによる手遊び・絵本の指導案作成		
	11　実習準備（実習課題清書） 試験対策		
	12　産学連携		
	13　試験 手遊び・絵本の読み聞かせの発表・ペープサートの発表		
	14　まとめと振り返り・お礼状の書き方		
	15　最終確認 ※授業の内容は進み具合によって変更する場合もあります		
必須テキスト	千春と大吾の保育実習ストーリー(萌文書林)		
参考文献			
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育所での実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	20　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	20　%	専門的知識・技術	20　%

2025年度　講義要綱

科　目	保育実習指導Ⅰa 必修 講義	講　師	竹島 孝昭
授業概要	実習日誌の記載方法を体得したり、実習に向けて具体的な準備を進め、実技の練習、心構えを養い、保育所実習を有意義なものにするために必要事項を学ぶ。		
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。		
到達目標1	子どもや保育士に対する理解を深め、現場での実習生としての自分の姿をイメージできる。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	報連相ができている（現場連携週電話報告、オリ日程報告など）（20点）、提出物（保育教材、日誌など）（30点）
到達目標2	保育所実習に臨む態度や目的意識が持つことができる。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	絵本準備・発表（20点）、指導案などの提出物（10点）、筆記試験（20点）
授業方法	講義、発表、グループワークなど		
授業計画	1　保育実習の概要　実習Ⅰ準備アンケート、ペープサート紹介		
	2　.実習の心得　個人票作成　エピソード日誌の基本を知る		
	3　保育所の1日の流れと保育内容の理解　実習目標を立てる ゲスト講師を招いて講義		
	4　エピソードの書き方の基本を知る 実習日誌を書く意義と記入の仕方		
	5　実習日誌：エピソード記録の書き方について 現場連携準備		
	6　産学連携		
	7　見学内容を記録する 実習課題下書き		
	8　部分実習指導計画について 実習に伴う書類作成　事務手続きの確認		
	9　オリエンテーションについて　実習日誌の書き方		
	10　グループワークによる手遊び・絵本の指導案作成		
	11　実習準備（実習課題清書） 試験対策		
	12　産学連携		
	13　試験 手遊び・絵本の読み聞かせの発表・ペープサートの発表		
	14　まとめと振り返り・お礼状の書き方		
	15　最終確認 ※授業の内容は進み具合によって変更する場合もあります		
必須テキスト	千春と大吾の保育実習ストーリー(萌文書林)		
参考文献			
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育所での実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	20　%	主体性 素直 思いやり	10　%
	他者と関わる力	20　%	専門的知識・技術	20　%

2025年度　講義要綱

科　目	保育実習指導Ｉb 必修 講義	講　師	藤高 直之
授業概要	様々な施設の現場に立ち、対象者との関わりを通して学ぶ「施設実習」を行う際に必要となる知識や視点を養い、「施設実習」で得る貴重な経験を、より有意義な学びとできるよう、具体的な準備を進める。		
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務 等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や 目標を明確にする。		
到達目標1	講義内容を理解し、要点をまとめ、自らの考えを文章として記すことができる	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	講義内容に関するノート提出(60点)
到達目標2	実習に臨むにあたり、目的意識や自らの課題を具体的に記すことができる	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	授業への取り組み姿勢（20点）、実習目標の作成（20点）
授業方法	ノート作成を伴う講義受講		
授業計画	1　オリエンテーション（授業概要・目標・方法・評価・持物等の説明）		
	2　子どもの育ちの理解①：愛着障害（1）		
	3　子どもの育ちの理解②：愛着障害（2）		
	4　関わりの技術①：実際の実習より（ロールプレイ）		
	5　関わりの技術②：「視点」を養う		
	6　産学連携週		
	7　子どもの育ちの理解③：発達障害		
	8　関わりの技術③：療育場面より		
	9　施設実習先の発表		
	10　施設実習への具体的準備①：個人票作成、オリエンテーション準備		
	11　施設実習への具体的準備②：実習目標の作成（1）		
	12　産学連携週		
	13　施設実習への具体的準備③：実習目標の作成（2）		
	14　実習日誌の理解と練習		
	15　施設実習への具体的準備：実習前／実習中／実習後にすること		
必須テキスト	特になし		
参考文献	授業中に適宜紹介する		
担当教員の専門分野等	子ども家庭福祉（主に子育て支援）が専門。大学教員と並行して社会福祉士及び保育士として、大学付属の子育て支援センターで活動中。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10　%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	25　%	主体性 素直 思いやり	20　%
	他者と関わる力	25　%	専門的知識・技術	10　%

2025年度　講義要綱

科　目	子どもと保育 選択必修 講義	講　師	佐藤 めぐみ
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。 実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、実習への期待を持つ。		
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 現場活動を通して、実践で活躍する人材へと成長する。		
到達目標1	実習への準備の基本として、授業に毎回出席する、提出物の期限を守る、報連相を行うことができる。（①コマ目）	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	スケッチブックシアター提出(20点)、スケッチブックシアター発表（10点）、お礼状など課題(10点)、その他提出物(10点)
到達目標2	実習をイメージしながら、実習に必要なスキルを習得する。（②コマ目）	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	実習Ⅱ自己開拓用紙取り組み方、提出(20点)、エプロン提出(20点)、時系列日誌提出物(10点)
授業方法	実習をイメージするために必要な基礎知識を学びと共に、手遊びや折り紙など実践的なスキルを高める。		
授業計画	1 「オリエンテーション」授業のルールと自分の学ぶべき事を理解する		
	2 「保育所の一日」一日のながれを知り、実習をイメージする		
	3 「森口先生の特別講演」保育現場の先生の講演により、保育の重要性を理解する		
	4 「環境図」実習日誌の最初のステップとして、環境図をかくことができる		
	5 「スケッチブックシアター」の制作と「保育所見学」の準備を行う		
	6 産学連携現場活動		
	7 「実習のながれ」を知り、実習までの道しるべをイメージする 「映像から学ぶ」色々な保育園があり、新人保育士の頑張っている姿から自分の将来をイメージする		
	8 エプロン縫い付け		
	9 「お礼状の書き方」を知り、実践する		
	10 日誌の書き方① 日誌の基本的な約束ごとを知り、日誌を写す		
	11 実習DX練習		
	12 産学連携現場活動		
	13 「日誌の書き方②」保育所見学したことを日誌に記入する		
	14 日誌の書き方③ 「まとめ」前期授業で学んだ事を整理し、実習への道しるべを立てる		
	15 わくわくタイム ※授業の内容は進み具合によって変更する場合もあります		
必須テキスト	千春と大吾の保育実習ストーリー（萌文書林）		
参考文献	なし		
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度　講義要綱

科　目	子どもと保育　選択必修　講義	講　師	竹島 孝昭
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。 実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、実習への期待を持つ。		
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 現場活動を通して、実践で活躍する人材へと成長する。		
到達目標1	実習への準備の基本として、授業に毎回出席する、提出物の期限を守る、報連相を行うことができる。(①コマ目)	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	スケッチブックシアター提出(20点)、スケッチブックシアター発表（10点）、お礼状など課題(10点)、その他提出物(10点)
到達目標2	実習をイメージしながら、実習に必要なスキルを習得する。(②コマ目)	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	実習Ⅱ自己開拓用紙取り組み方、提出(20点)、エプロン提出(20点)、時系列日誌提出物(10点)
授業方法	実習をイメージするために必要な基礎知識を学びと共に、手遊びや折り紙など実践的なスキルを高める。		
授業計画	1 「オリエンテーション」授業のルールと自分の学ぶべき事を理解する		
	2 「保育所の一日」一日のながれを知り、実習をイメージする		
	3 「森口先生の特別講演」保育現場の先生の講演により、保育の重要性を理解する		
	4 「環境図」実習日誌の最初のステップとして、環境図をかくことができる		
	5 「スケッチブックシアター」の制作と「保育所見学」の準備を行う		
	6 産学連携現場活動		
	7 「実習のながれ」を知り、実習までの道しるべをイメージする 「映像から学ぶ」色々な保育園があり、新人保育士の頑張っている姿から自分の将来をイメージする		
	8 エプロン縫い付け		
	9 「お礼状の書き方」を知り、実践する		
	10 日誌の書き方① 日誌の基本的な約束ごとを知り、日誌を写す		
	11 実習DX練習		
	12 産学連携現場活動		
	13 「日誌の書き方②」保育所見学したことを日誌に記入する		
	14 日誌の書き方③ 「まとめ」前期授業で学んだ事を整理し、実習への道しるべを立てる		
	15 わくわくタイム ※授業の内容は進み具合によって変更する場合もあります		
必須テキスト	千春と大吾の保育実習ストーリー（萌文書林）		
参考文献	なし		
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度　講義要綱

科　目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ　選択必修　講義	講　師	浦 啓子、木下 裕子、島内 亜津子、白鳥 久代、高山 美帆、山崎 洋子、渡辺 容子
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。コードネームによる簡易伴奏の仕組みを知り、まずハ長調の曲で演習していく。 15回目の実技試験課題はピアノ曲1曲、子どもの歌1曲の弾き歌いを演奏する。自身のスキルに合わせた曲目選択は担当講師とよく検討し決定すること。		
授業目標	1．子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2．保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。		
到達目標1	教科書や「はじめての弾き歌い」のハ長調のコードネームによる弾き歌い等について自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨み、子どもたちへの視点を持った弾き歌いが出来る。	到達目標1に対する評価（方法及び配点）	個人レッスンと自主練習への取り組み度（20点）、実技試験発表（30点）
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、環境、生活、人間関係等のそれぞれの歌のねらいを知り、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価（方法及び配点）	グループ演習への積極的参加度（20点）、実技試験発表（30点）
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に鍵盤・手元を映すよう工夫すること。		
授業計画	1　前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。（Ⓐ Ⓑ2グループに分かれて45分で入れ替わる）		
	2　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。		
	3　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ保育士に必要な音楽基礎知識（五線紙は授業内で配布する。）		
	4　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ現場で役立つ声の出し方（呼吸法・発声法）		
	5　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。		
	6　後期産学連携第6週課題：今回は、保育者が手遊びやリズム遊び、音楽遊び等で子どもたちと関わる姿は見られましたか？そこにはどのようなねらいと効果が見られたか、教えてください。また、そのような場面に出会わなかった方は、音楽遊びを園生活の中で必要に応じて展開する際、保育者はどんなことに気を付けたらよいか、考えを教えてください。		
	7　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑわらべ歌・手遊び歌の演習		
	8　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ童謡・唱歌等の子どもの歌の演習		
	9　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ簡単な2声のハーモニー（共働作業を楽しむ）		
	10　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑリトミックを含む歌遊びの演習		
	11　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。		
	12　後期産学連携第12週課題：今回は、保育者が手遊びやリズム遊び、音楽遊び等で子どもたちと関わる姿は見られましたか？そこにはどのようなねらいと効果が見られたか、教えてください。また、そのような場面に出会わなかった方は、11月ならどんな歌遊びを、どんな展開で子どもたちと楽しみたいか、対象年齢も決めた上で教えてください。		
	13　Ⓐピアノ等による個人レッスン／Ⓑ個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。		
	14　実技試験に向けてのリハーサルと個別指導　（Ⓐ Ⓑ共）		
	15　実技試験（発表会）と各自の振り返り(ⒶⒷ共)		
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社		
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編		
担当教員の専門分野等	専任：木下裕子　東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。		

この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10　％	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10　％
	社会人としての基本	10　％	主体性 素直 思いやり	15　％
	他者と関わる力	15　％	専門的知識・技術	40　％